

2010 年 (平成 22 年)

新春号

[第 19 号]

発行 東京鉄構工業協同組合
 〒 104 東京都中央区八丁堀 3-9-5 KSビル6階
 - 0032 TEL : 03 (5566) 1595
 FAX : 03 (5566) 1597

Tokyo
Steel-rib
Fabricating
Association

Report

東構協

<http://www.tsfa.jp/>

平成22年賀詞交歓会 (1月29日 於・銀座東武ホテル)



「不況脱出の戦略」

理事長 池田 英敏

100年に一度という未曾有の世界的な経済危機を迎え、先の見えない時代に突入してしまったとの思いを深くしている。これからわたしたちはどこに目を向け、どの方向に進路をとって行くかという大きな課題について考えなければならない。あまりにも変化の激しい昨今、流れの速い潮流から取り残されてしまうのではないかとこの孤独感、悲愴感に陥ってしまうことを免れることはできないと思われる。

鉄骨業界を見渡し、企業間競争による熾烈な争奪戦を強いられ、利益のな

い仕事に振り回されている現況をみるにつけ、孫子の兵法の中にある次のような戦略が自ずと思ひ浮かぶ。「軍に将たることは静にして以って幽なり」。これは、リーダーの大切な心構えとしてどんな危機にも平然とし、奥深く思いを及ぼさせることを説いている。では、実際にどのようにすれば良いかということ、「高い志」と「将来のビジョン」をしっかりと持って情報収集のアンテナを高く掲げ、時代の流れを見ながら変化に対応する能力とそうした変化を見通す能力を鍛えることが

肝要であると思われる。

また、「人を育てる企業に不況なし」と言われるように、社員教育にも目を向けていかなければならない。つまり人を育てて人材ならぬ「人財」にすることだ。こうしたことをコツコツと地道に実践し、大所高所から物事を深く思慮することでこの大不況から脱出することができるのではないかと。

加えて、「正しいことを正しくやる」こともこういうご時世だからこそますます大切となる。「努力する人間を社会は決して放っておかない」というのがわたしの信条の一つだが、皆さんも苦勞をするなら夢のある苦勞をしませんか。

今年一年も苦勞を共にし、組合の理念である相互扶助の精神と組合事業への参加を心よりお願いするとともに、ご協力・ご支援をよろしくお願ひします。
 (池田鉄工社長)

組合理事役員 年頭のあいさつ

国家と国民



副理事長
総務・広報委員長
松田 清明

このたびの衆議院選挙で政権が民主党に変わった。選挙前のあれやこれやを盛り込んだマニフェストに縛られて右往左往の状態にみえる。もともと長期の国家戦略などなく、国民の人気取りを狙った場当たりのものだからやむを得まい。国家戦略局なるものを作ってはみたものの、いまだに機能していない。各省庁の大臣たちが好き勝手に物を言うから、政策の不合理的ばかりが眼につき、收拾がつかないドタバタ劇のありさまである。その間に日本の経済は奈落の底に落ち込んでしまった。他方、ブリックス諸国の経済成長は著しく、欧米諸国も昨年の年初来プラス成長である。ひとり日本だけが名目GDPでマイナスとなり、株価は冴えず、物価は下がり、給与も伸びず、まさにデフレ状態にある。これはなにも民主党政権だけの責任ではない。末期の自民党も大いに反省すべきであるが、国民の期待を担うべき新政権の手腕に内外ともに市場からNO！をつきつけられたからに他ならない。

今年はどうなるのか。政府が何もできないからといって、国民は何もしないでいいというわけにはいかない。一人ひとりがまず自分のできることを行い、身近な者を精一杯の努力で守らなければならない。そしてそれが家族・社員・会社のため、ひいては社会のため、国家のためと輪を広げていかなければならない。「国に頼らず」である。

翻って、わが鉄骨業界の現状は惨憺たるありさまである。我々は何をなすべきか？はつきり言えば耐え忍ぶしかない。人の足を引っ張るのではなく、競争のなかにも協調の精神を忘れてはならない。これが全構協・組合のモットーでは？鋼構造物の需要はなくなるわけではないので、嵐が過ぎるのをじっと待とう。そして、不幸にもそれを待たずに力尽きても仕方がないではないか。(松田鋼業社長)

70の手習い



副理事長
教育・技術委員長
森 明

昨年の暮れに72歳を数えて、新年を迎えられたことに感謝し、御厚情を頂き、お世話になる多くの皆様へ心中よりお礼申し上げます。

遠からず、現役時代に変えて到来する未来に向けた行動の記念として、ある吹奏楽器の修練を始めた。若人に交じり近くのミュージックスクールに通っている。

40の手習いならぬ70の手習いに、幾ばくかの羞恥心を感じつつも、始めて以来、年を忘れる一時に一人満足している。

若い頃、勤務先の労働組合吹奏楽団結成に応募して以来で、今の仕事に人生を賭ける間は遠ざかっていたものの、生来の音楽好きが発端で4年前に、せめて60代の内にと、新しい楽器を買い求め、昔を懐かしんで練習を始めたのだが、その途端に忌まわしくも顔面神経麻痺なる病魔に取りつかれ、楽器演奏どころかスマイルもできない哀れな姿になり、見果てぬ夢と化し諦めていた。

吹奏楽器は唇、舌、歯、頬、を使い、呼吸と指使いに合わせて体中で音階、

音色、リズムを創造する、かなりエネルギーギッシュな行動を求められる楽器である。

何より健康であることと同時に、健康増進と老化防止になると思い直して、近頃またしても機会を窺う様になった。

音楽には聴く楽しみと奏でるたのしみがある。しかし、この奏でる楽しみとは大変に厄介なもので、傍のものは迷惑至極、落語の大家さんを演ずるが如くになりかねない。

マンションでは窓を全部閉め切り、ドアを防音区画として閉め、家内がお使いに出かけてから奏でることを心がけている。皆様には決してご迷惑にならないよう心致しておりますので安心ください。

せめて組合と皆様のご繁栄を高らかに吹奏して、この不景気を吹き飛ばせばと願っております。

(日本鉄構建設工業会長)

自信を取り戻そう



副理事長
共済事業委員長
Mグレード部会長
池谷 春夫

どうも世の中、暗い話が多い。景気がこれだけ悪くなると致し方ないという思いもするが、毎日、身の回りにも暗い話ばかり多すぎる。

日常的に暗くなると、人間も元気をなくすようで、悲観的に考える人たちが増えてくる。おそらくこの国の国民性なのだろう。

まるで日本全体がすべて閉塞感の状況にあるかのようなこともあるが、日本はそう悲観する国でもない。潜在的に課題の克服力を持っていると私は思う。この国は、1968年に国内総生産(GDP)が世界2位になって経済大国と呼ばれて久しい。輸出では大手企業ば

かりが目立つが、それを支えたのはいうまでもなく、先端技術であり、中小企業である。今、iPS細胞（新型万能細胞）などの化学、超伝導、電気自動車、省エネルギーや医療、廃棄物リサイクルなどのハイテク技術が注目されている。これら日本をリードする最先端の研究や技術に携わるのは、人であることを忘れてはならない。そして、もともと日本はモノ作りが得意な国である。世界的に競争するなら、雇用を踏まえ技術を集約して、国力で対応したほうがいい。今回のデフレ景気を構造問題と指摘する関係者がいるが、根本的に需要の不足から生じているのは誰の目にも明らかだ。

自信喪失の日本経済を一刻も早く立ち直すには需要の創出以外にないと確信する。（日東鉄工取締役本部長）

仕事量の激減と生き残り策



副理事長
経営近代化副委員長
武田 忠義

われわれ鉄骨業界はかつてない、文字通り未曾有の危機に置かれている。鉄骨需要は昨年度実績が600万トンを割り込み、大幅に減少した。バブル当時の1200万トンと比較すれば、まさに半減であり、これだけでも大変なことだが、09年度はこの水準をも下回り、巷では400万トン割れの公算もあると聞く。

仮に400万トンとすれば、このうち大型物件が70万トン前後、また小規模物件〔軽量等〕を50万トンと想定すれば、残り280万トンで全構協ファブは食べて行かなければならない状況となる。全国の鉄骨ファブ各社の供給力をおよそ800万トンとすれば、5割操業でも埋まらないことになる。

残念ながら、この様な状況に妙案

もないが、力が残っているうちに転業、廃業また兼業会社は撤退等を考えて頂き、数を減し、続ける会社にしても特色を持たせない限り、生き残りは難しいのではないだろうか。

決して不安を煽るつもりはないが、ここ数年はとくに景気のサイクルが早い上に、その上下の振れ幅が大きくなってきている感じがしてならない。

将来展望として内需の仕事量を考えると、これからは建設業界全体が本格的に世界に出て行かなければならない時期が迫っている感じがするのは私だけであろうか。（叶産業相談役）

存続可能な条件



副理事長
耐震補強対策委員長
飯田 歳樹

2008年の秋口よりリーマンショックの影響で、銀行、証券を筆頭にすべての企業がダメージを受け、世界経済とグローバル化していることを改めて認識した。

また、日本では昨年、政権交代劇が起き、「コンクリートから人へ」というマニフェストを掲げたことにより政治が変わり、われわれ建設業に関しては企業存続の危機を肌身に感じる毎日となっている。

物件の絶対量が少なければ、当然、過当競争になる。SグレードからJグレードまで、すべてのランクが渦中に巻き込まれることは当然のことである。そこで、存続可能な条件を考えてみた。以下にそれを箇条書きとする。

- ・資金力のある企業
- ・差別化を従来より実行している企業
※明日から切り替えても手遅れ。
- ・良心的な単価発注を心がけている、資金力のある企業とのパイプの太さ
- ・競争力があり企業防衛ができること

・社員より絶対的な信頼を受けている事業主

・熱意ある社員が全員一丸となり仕事を盛り上げるよう努力している企業
——以上6項目挙げたが、現実は大変である。

私自身まだまだ勉強中の身だが、実現に向け今年は半歩づつ前に進みたいと思っている。東構協組合員、良き友、良き酒、良き情報交換をしながら楽しい一年を送りたい。今年もよろしくお願いたします。（飯田製作所社長）

雨降って、地固まる



副理事長
経営近代化委員長
鈴木 貴久

「元気ですかーっ！」

「元気が一番！」

「元気があれば、何でも出来る！」

ご存知の方も多くおられると思うが、アントニオ猪木さんの言葉である。

そして、実は私の座右の銘でもある。マジです。

サブプライム問題と言われて久しいが、当然ながら順番で言えばプライム問題になる。あまり裕福でない人々の郊外の家がサブプライム問題の発端なら、高級住宅街の家や都心の商業ビルがプライムと言うことになる。このプライムバブルはサブプライムの20倍と言われ、今後20倍の不況になるという恐ろしい話があるそうだ。なにしろアメリカは2008年の後半3カ月で200年分のドルを印刷したそうだから・・・。

報道の「景気は底打ち」もしくは「二重底に注意」のどちらでもないかもしれない。ガクガク、ブルブル。

こんなシンドイ話題で年始の賀詞交歓会等の会合が始まるのだろうか。

それでも時間は平等に、そして確実に経過していく。業量が少ないのなら、市場価格が安いのなら、そうした環境、社会変化にどう順応するか。素早くノウハウを蓄えられるのか。変えられたではなく、変えることができるのか。それを試されている時なのだろう。

変わる勇氣・大切だ。

まずは、そういうタイミングなんだと元気に受けとめようと思う。

そう、「雨降って、地固まる！」だから。昨年よりも元気な自分がここにいます！

猪木さんに誓って。

(那須ストラクチャー工業専務)

R・Jグレードの活動



理事

R・Jグレード部会長

杉本 豊

R・Jグレード会員及び皆様には輝かしい新春をお迎えのことお喜び申し上げます。日頃からR・Jグレードの発展のため、ご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

鉄構業界、R・Jグレード業界を取り巻く経済状況は依然として厳しい状況が続いていますが、R・Jの皆さまには事業発展のために懸命な努力を重ねられていることと拝察申し上げます。

東京R・Jグレード部会、全国R・Jグレード部会連絡会が今日までを迎えられたことは会員事業所の皆さまの温かいご支援とご協力の賜物と心から敬意を表します。R・J会員及び零細ファブに働く方々へこれまで以上の魅力ある事業所職場の充実を図られますことを期待しています。

また、全国R・Jグレード部会連絡会では東西2回の工場見学会を開催しており、大勢の方々が技術の進歩、

時代の対応を学んでいます。今後とも勉強会、見学会のご参加をよろしくお願いたします。(一本木鉄工社長)

秋の奥秩父



理事

柳本 幸治

秋晴れに恵まれた朝、久しぶりに家族と出かけることにした。行き先は奥秩父の「白谷沢」。孫が小さいなりにリュックを肩にかけはしゃぐ姿はまさに今日の主役である。

有馬ダム(名栗湖)湖畔に車を置き、紅葉が水面に映え絵葉書のように美しいその湖畔を300メートルほど歩くと白谷沢の登山口に着く。小生が40数年前にこの地を訪れた時は、名栗駅からバスに揺られて途中、川又で降り、名栗川沿いを登って白谷沢の登山口に出た。今またこの地に至ってみると、有馬ダムが出来たことで当時とはすっかりようすが変わっていた。

さて、今回の目的は沢登りである。沢登りは一般に普通の登山とは異なりベテラン登山者向けで、道なき道を行く、の感があるが、ここ白谷沢では初心者や子供にも登れる場所がある。登山口から木の葉の散り敷く山道を15分ほど登ると、左下に多数の小滝が見えてくる。滝音の響きとともにいよいよ沢登りの始まりだ。

そこは、大小の小石で沢の道が出来ている。小川や滝を幾重にも横切りながら登ると、岩茸石に出る。両側に巨大な岩が立ち並び、まるで登山者を歓迎しているようであった。途中、「クサリ場」があり、登る人、降りる人が交互に列になって越えていく一番の難所となっている。難所を過ぎると間もなく林道に出る。ここに東屋があって、大勢の人が休憩したり、山水を飲

んだりできる。そこで早目の昼食と休憩をとった後、棒の峰まで一気に登った。

帰りは温泉に入りたいと孫が言うので(とは言いながら実は小生の意向)、「さわらびの湯」に立ち寄ることにした。今日一日を思い返すと、森林浴やマイナスイオンを十分に浴び、温泉に入ることもでき充実の一日であった。首都圏からほど近いところに素晴らしい自然がある。これからも大切にしたいものだ。(富士工業専務)



「2012」を観て



理事

阿部 修一

先日映画鑑賞をした。話題の映画ということで人類滅亡の2012を選んだ。

マヤの滅亡した文明の中での予言、というより、マヤの文明が2012年に一区切りされており、それが終末論的に広まったらしい。その点、仏教は永遠に続くそうだ。

内容は「ノアの箱舟」と「日本沈没」の合わせたパクリでした。2000年前と30年前を足し、現在に脚色したストーリーとしては、かなり損をした気分となった。ただ、画像と音響には迫力があつた。映画の世界ではパクリで

も現在流にアレンジさえすれば「冬のソナタ」同様通用するものなのだと思っただ。それに比べ、わが業界はバクリで深刻な状況に陥っていることに感じているのかどうか？

技術的なものは如何にパクっても会社の骨や肉になるが、価格だけは止めるべきだと思う。骨や肉があっても血がなくなるとは生きていけないはずがない。他の会社がやるからうちもやる、ではある意味、共食い状態であり、正に滅亡へ突き進んでいる。

かつて4兆円の市場が今や1兆円を割るわが業界。「2012」は近未来の恐怖である。(川岸工業営業部長)

嗜好品としての「たばこ」について考察する



理事

佐藤 憲夫

昨今、税収を上げるための「タバコ税」論争やら、「がん発生率を下げ健康促進のためにも禁煙すべきだ」とのありがたい高説やらがマスコミ等々をはじめ世の中を騒がしている。某社では「タバコの値段がいくらになったら禁煙するか」というアンケートを行い、500円？、600円？、それとも1000円になってもまだ吸うのか？、などとトトカルチョになりそうなことまで実施しているやに聞いている。さらに、国民の異常なまでの支持率で誕生した現首相は、国会で「税収が減っても健康の方が大事だ」と答弁したそうだ。

そもそも「タバコ」は嗜好品なわけです、広辞苑によると「栄養摂取を目的とせず、香味や刺激を得るための飲食物。酒・茶・コーヒー・タバコの類」とある。酒は飲む量さえ気を付けば百薬の長であるし、飲みたいときに飲むお茶やコーヒーを飲む度に「飲んで

もよろしいか」と聞くだらうか？つまりは本人の好みであるから、人からどうのこうのと言われることではないと思うのだが。

仕事の上でもそうでない時でもいいのだが、考えがまとまらずに一つの思考がぐるぐると頭の中を巡って答えに行きつかないというようなときに、ほとんど無意識に「たばこ」に手が伸び、一服したとたんに脳に閃光が閃いた瞬間を想像してほしい。改めてゆっくりと手を伸ばし、火を付け、深く吸い込んだ紫煙をフーと吐き出すその時、左手にはマッカラン18年のショットグラスでもあってごらんなさい、ご同輩。まさに至福の時ではありませんか。

カサブランカのハンフリー・ボガードは「たばこ」を吸っているから、あの哀愁が出る。タバコを吸わないボガードなんて……。などと言いながらも、タバコ愛好者には厳しい時代であるので、マナーだけは良く、人様には迷惑をかけない吸い方をと思う今日この頃であります。(アイ・テック専務)

「両忘」という言葉に導かれ



理事

坂爪 幸男

昨年も厳しい経済情勢の中で、1年間過ごしてきた。

仕事が少ない、何とかして仕事が取れないものかと悩みながらも、見積りは多少なりともあった。けれども、見積りでは2番手となることが多く、この世界は2番手でも5番手でも負けは負け。勝ち負けだけを見ると、受注できるかどうかで白黒がはっきりしている。このような状況のなか、悩みながらもいつかはいい日が来るだろうと思いき、気持ちを奮い立たせてきた。

とある日、『ふっと心が軽くなる禅の言葉』という本を手にし、「両忘」という言葉に出会った。

「両忘」とは、「勝ち負けのこだわりから抜け出し、生死を忘れる」ことを言う。この言葉に出会ったことで、日頃の悩みから解放され、気持ちがグッと楽になり、「勝ち負けなどどっちだっていいじゃないか」という余裕が生まれてくる気がした。

この世界で生きている限り、当然ながら仕事を続けていかねばならないし、仕事にまつわる悩みに付きまといることだろう。しかしながら、機会あるごとにこの言葉の意味を思い返して程良く肩の力を抜くことで、今年1年を清々しくおだやかな気持ちで過ごしていければと願っています。

(坂爪建鉄工業社長)

「エース」



理事

谷村 忠行

本格的にゴルフを始めたのは、03年の夏、33歳の頃である。余りに下手な私をみかねてなのか、親父が中山カントリークラブの会員権を勧めてくれたのがきっかけだった。地理的に弊社の船橋工場が隣接し、東京に近く、親父もメンバーだったので入会することにした。その当時、120回位叩くことはザラだったが、最近ではハンデ9になり、昨年からは研究会にも入会している。残念ながら、私にはこれまでの人生で最後までやり遂げた物事や趣味が一つもない。しかし、ゴルフと出会ってからは、同好の士たち(多くは先輩)に基本的な技術やマナーはもちろん、社会生活における様々な情報や礼儀等まで教えて頂きながら、少しでも上達すべく努力を重ねてきた。その甲斐も

あり、ついこの間、うれしい出来事があった。11月6日に妻の39歳の誕生日会を自宅で催したその次の日のことである。中山CC7番ホール、166ヤードのベントグリーンのコースにて奇跡が起きた。7番アイアンで打ったボールは気持ちの良いほど美しい軌道を描きながらピンに向かって一直線に飛んでいき、気がつくとホールインワンを達成していた。よく事故に遭った時などその瞬間だけスローモーションになると聞かすが、その時の私もまさしく同じような経験をした。ボールがピンの根本に突き刺さると同時に、バアコンという物凄い大きな音を立てたのにビックリして我に返り、一瞬の間を置いてキャディの伊藤さんが「入ったあ！」と叫んだ。

ゴルフは人の性格がまともに出るスポーツと言われる（ちなみにホールインワンの出る確率は、週1回のペースでコースを回った場合、1/8000～1/12000とされる）。私なりにこの

スポーツとともに楽しい人生を送り（当然、仕事と家庭が一番だが・・・）、一生をかけてやり遂げたいと思っている。そしてまた、家庭と会社のエースであり続けられるよう努力していきたい。（谷村製作所社長）

がんばれ青年経営者諸君！



理事
青年経営者委員会
幹事長

吉岡 晋吾

現在、100年に一度の不景気と言われる中、もがき苦しむ青年経営者のみなさん！今年も去年同様、大変厳しい年になると予想される。

これまで何度もこういった不景気を経験された先輩経営者の皆さんからのご指導を受けながら事業を引き継ぎ、さらに10年、20年先を見据えた事業

経営を継続していかなくてはならない時期に、今まさに来ていると思う。

そのためにはまず、個々の懇親を深め同じ価値観を持った仲間を増やし、文武両道の精神のもと失敗を恐れず積極的な行動をし、また、ここで一度、初心に戻りゼロからスタートをする勇氣を持ち、業界の仕事に自信と誇りをもって取り組み、進化及び変化を求め、さらには後輩の教育にも目を向けていかなくてはならない。

そして、業種を問わずたくさんの人と交流を持ち、自分のキャパを広げることだ。正月の学生箱根駅伝のように、母校のために襷を次走者に確実に手渡すために、地道な努力こそが必要であり、その襷が手渡せられるのを仲間を信じて待ち続けること。

この行動こそが後のわれわれ業界の宝となり、救世主になるに違いない。青年経営者の皆さん！こういう時期だからこそ、元気を出しましょう。

（吉岡工業専務）

ZRC工法資格認定講習会開く 近郊県含め約60名が受講

当組合は11月19日、東京都江東区東砂町の飯田製作所で「ZRC工法資格認定」講習会を開いた。神奈川、山梨、群馬などの近郊県からの参加者も含めて計60名が受講。参加したファブは、亜鉛めっきの特性や施工手順など工法の説明と塗布作業の実習を通じてZRC工法を学んだ。

近年、耐震補強工事などで常温亜鉛めっき「ZRC」の採用が増加。全国の鉄骨ファブ各社からのニーズも多く、また、同製品の取り扱いと塗布作業にはZRC工法研究会によって『施工管理者』あるいは『施工者』として認定を受ける必要があ

ることから、今回、東構協技術支援講座の一環として資格取得のための講習会を開催したもの。

開催に先立ち、教育・技術委員会の森委員長が、「新しい技術を学んで、日頃の仕事や業務に反映して貰いたい」とあいさつした。

その後、ゼットアールシー・ジャパンの標信男氏が講師となり、亜鉛めっきの防食メカニズム、ZRC塗布時の作業手順や注意事項、チェックシートなどを説明。

「仕様に応じた施工が伴ってこそZRCの特性が発揮される。本工法のポイントを理解したうえで作業に当たってほしい」と呼びかけた。続く、作業実習では受講者自らが試験板にZRCを塗布し、専用のウェットゲ

ジで膜厚を計測、万全な施工結果が得られたかどうかを確認した。

なお、講習終了後、41名が施工管理者、18名が施工者として登録され、証書が発行された。



野菜の味



東構塾塾長

宇留野 清

6年くらい前まで家の近くの世田谷区の区民農園を借りて18年ぐらい野菜作りをしていた。せっかく自分で作るので、完全無農薬、完全有機とまではいかないものの、極力農薬は控え、できるだけ有機肥料を使っていた。有機肥料は、一時期数年間近くの団地の檫の落ち葉を貰って堆肥を作ったこともあった。これは良い肥料になったが、完全な腐葉土を作ろうと思うと管理が大変なのでやめてしまった。有機肥料は、近くの農協か肥料店で購入していたので、肥料代は結構高いものについたので、コストからするとスーパーで買うものよりかなり高いものになったと思う。しかし、味は、自画自賛ではないが、自慢できるものであった。特にトマト、枝豆、いんげん、ブロッコリー、カリフラワー、ほうれんそう等は買ったものとは、一味も二味も違っていた。

農薬については、極力控えてはいたが、周りの人は、結構農薬を使っている人が多く、ある程度使わざるを得なかった。ブロッコリーやカリフラワー

は、定植した後、殺虫剤を使わないと毎日虫取りをしないと一日で丸坊主にされてしまう。青虫は葉の裏面か表面にいたので見つけやすいが、夜盗虫(ヨトウ虫：ヨトウ蛾の幼虫、読んで字の如く、夜活動する。雑食性で緑のものならほとんど何でも食べ、その食欲たるやものすごい)は、昼間は土の中に潜んでいて、夜になると這い出してくて食害する。朝早く行っても、すでに土の中にいるので、その食べられた株の周りの土が少し柔らかくなっているところを掘るとその中に潜んでいるのでそれを見つけて殺さなければならない。ブロッコリーやカリフラワーの場合、食べる花の部分が大きくなると土の中に行かずに花の中に隠れていることがある。これを分からずに採ってきて茹でると大きなヨトウ虫が浮かんでいることがある。このように殺虫剤を使わないで野菜を育てるのは大変な労力を要するので、結局はある程度は使わざるを得なかった。ある時、世田谷区内で心食い虫が大量に発生したことがあり、この時にもかなり使用した。それでも収穫する時と食べる時の楽しみを考えると苦にはならなかった。

ある時、同じ農園で野菜を作っている人からブロッコリーを貰ったことがあった。そのブロッコリーは、結構大きくて立派なものであった。しかし、そのブロッコリーを食べて驚いた。甘味は全く感じられず、無味乾燥といっ

た感じの味であった。

農園の中では、よく見て回っているので誰がどんな作り方をしているかは大体わかっていた。そのブロッコリーを貰った人は、ほとんど化成肥料だけで育てていたのと農薬もかなり使っていたのを知っていた。

この味の違いは、同じ苗を分けて貰っているのに品種は同じで、日照の条件も同じなので肥料の違いに因るもの大きく、農薬の影響は少ないのではないかというのが実感であった。

肥料でこれ程までに野菜の味が違うものとは、この時に初めて知った。

最近、時期の野菜は近くの農家が売っているものを買うことが多い。二軒の農家があり、いつもは一軒の農家で買っているが、たまたまもう一軒の農家でブロッコリーを買ったことがあり、この時も味の違いを体験した。いつも買っている農家のものは、かなり良い味で、虫に食べられたり、虫が中に入っていたこともあったので安心して買っているが、たまたま買ったもう一軒の農家のものはかなり味が落ち、スーパーのものよりも劣っていた。二軒の農家がどんな肥料を使っていたかは分からないが、これもたぶん肥料の違いによるものと思われた。

自分で作る野菜は、露地栽培なので旬のものしか出来ないのも、これも味の良い一因と思う。

(東構協 前事務局長)

華胤(厦門)鋼業有限公司を訪問

—東構塾—

「東構塾」は09年4月24～26日の3日間、中国の福建省厦門(アモイ)市のファブリケーター、華胤(厦門)鋼業有限公司を見学した。2期4年間、塾長を務めた古藤凱生氏の退任に伴い、「一つの節目とする」ために

企画。塾生ら約20名が参加した。

24日訪問の「華胤(厦門)鋼業有限公司」は、建築用重軽量鉄骨と関連部材の設計・製造を手がけ、ビルトH形鋼(月産能力2500t)の生産を主体とし、将来的にはアジア市場への進出を狙う。見学後、古藤塾長が「みんなを幸せにする会社作り」をテーマに最終講義を行った。



理事役員会報告



◆1月理事会◆

□1月20日、於・銀座キャピタル□

組合の新ホームページ作成の進捗状況や東構塾の塾長交代などを報告。組合HPのリニューアルについては森教育・技術委員長が制作会社との打ち合わせ状況等の経過を説明。「営業に役立つHPという骨子にのっとり、内容やデザインなどを含め、後日詳細な検討に入る」とした。次いで超音波探傷講習会の日程や受講者数などを確認した。

今年度で2期4年目を迎えた「東構塾」は、古藤凱生塾長が今期の最終講義を機に引退することを報告。来期からの新塾長には宇留野清・東構協事務局長の就任が決定した。

◆2月理事会◆

□2月24日、於・組合会議室□

新年度の総会や役員改選などについて審議したほか、各委員会および部会などの活動状況を報告した。

各委員会報告のなかで、中川内理事は、東構塾の第Ⅱ期の修了に伴ない、「卒業記念旅行」を提案。協議の結果、4月24～26日に中国、FAR-EAST社アモイ工場の見学会実施が正式に決定した。

審議事項では、来年度総会を協議。会場は東京都荒川区の「ホテルラングウッド」に決定。役員改選の候補や議事内容など次回理事会で引き続き検討することに。また、7月の全構協・全国大会に向けて、会場スタッフとして

支援する内容やテーマについて活発な意見交換が行われた。

◆3月理事会◆

□3月26日、於・組合会議室□

理事会では各委員会・部会活動の報告後、平成21年度総会について審議。平成20年度収支決算、21年度事業計画・予算(案)や役員改選期のため新役員体制のほか、委員長、部会長、地区長など各メンバーについて協議した。今後、残る詰めの作業を急ぎながら、5月28日に東京都荒川区の「ホテルラングウッド」で開催される総会で正式に承認される。また、東構塾第Ⅱ期の修了に伴う「卒業記念旅行」は4月24～26日に中国、FAR-EAST社アモイ工場の見学会実施を正式に決定。さらに7月の全構協・全国大会に向けて、会場スタッフとして支援する内容やテーマについて活発な意見交換が行われた。

◆4月理事会◆

□4月22日、於・組合会議室□

第23回通常総会の議案内容や新年度事業計画案について検討、各委員会の活動報告を行った。今年度は役員改選期のため、指名推薦人5名を選任し、候補者の選定を委ねた。また、「経営環境が厳しさを増すなか、経営近代化委員会の活動を強化する必要がある。担当委員長を正副2名にしたい」の提案で副理事長の1名増員を承認。新副理事長の人選は総会審議で決定する。

議事ではこのほか、新年度事業計画案について協議。「雇用調整助成金の適用を希望する企業が多いようであれば、総務委員会主催の説明会を積極的に開催したい」とし、各地区単位で組合員の意向を聴取したうえで実施の是非を決めることとした。

◆5月理事会◆

□5月28日、於・ホテルラングウッド□

教育・技術委員会がJIS非破壊検査技術者2次試験(実技)のための講習会を今月15、16の両日、日本鉄構

建設工業での開催を報告。受講者は計18名となる見通し。

また、R・Jグレード部会は全国R・Jグレード部会連絡会の第6回通常総会を6月26日に名古屋で開催する予定と説明。総会後の催しとして「建設現場における事故事例と対策」(講師=愛知労働局労働基準部安全担当官)をテーマとした講演、そして「工事安全」「外国人雇用問題」「鉄骨工事・価格動向」「性能評価」の4項目についてパネルディスカッションが行われる。



◆6月理事会◆

□6月22日、於・組合会議室□

新HPの制作状況の報告を受け、「組合員の一層の便宜を考え、各種講習会などの申込書をダウンロードできるように内容の拡充を図る」ことを決定。実務担当者と打ち合わせ、HPの雛型の完成を急ぐこととした。

また、JIS非破壊試験技術者資格試験の準備講習会の継続実施を承認した。

理事会終了後の懇談で、各社の厳しい山積み状況が浮き彫りに。「見積りは多忙だが、足元の物件が激減しており、単価のダンピング合戦が生じている」「需要が想定以上に振るわず、加工賃が5万円を割りつつある。秋口以降、仕事が増えてくる見込みもあり、助成金を活用しながら辛抱する」などの声が聞かれた。

◆7月理事会◆

□7月27日、於・組合会議室□

密度の濃い情報交換を図るために、今まで以上に活発な地区会活動の推進を決めた。東、中、西の各地区が9月

中旬までに会合を開き、その日に合わせて地区ごとに組合員の中から1～2社を選定して工場の安全パトロールを行うことにした。

このほか、組合や業界の現況に関するニュースを伝え、各社の社長や従業員の素顔を紹介する「八丁堀便り」(仮称)の発行を決めた。組合員のメーリングリストを活用し、事務局から月1回程度の頻度で配信する。

理事会後の現状報告で「工場稼働率は9月まで90%前後、以降が50～60%で底。下期いっぱい厳しい状況が続く」(Hグレード)との声も。

◆ 9月理事会 ◆

□ 9月28日、於・組合会議室 □

全構協から資料提出を求められている「求心力向上及び構成員メリットの方策」をテーマに審議。活発な意見が提出され、とくに「技術偏重をやめて資格や認定など対外的な広報活動にウェイトを置くべき」「大臣認定以外に全構協独自の認定制度を創設すればどうか」「全構協というよりも足元の組合活動のメリットを固めることが先決」などが提案された。需要の大幅減少や競争激化に伴う単価下落など厳しい受注環境の中、問題点も数多いこともあり、最終結論に至らず、継続審議事項とした。

また、組合が実施する教育技術講習事業の名称を「東構塾」に規定する意見が提出。経営、管理、製作管理者講習の教育コースを設けて運営する具体

的な提案(事業規定)が提出されたが、東構塾の運営に関する独自性や開校が目前に迫っていることから、継続審議とした。

◆ 10月理事会 ◆

□ 10月27日、於・組合会議室 □

教育・技術委員会の森委員長の提案に基づき、教育技術事業の運営方法の見直しを協議。新たに「教育技術講習会事業運営規定」を策定し、「東構協技術支援講座」の名称のもとで技術研修、製作管理者講習、超音波講習などの教育コースを運営することを決めた。11月19日に第1回東構協技術支援講座として「ZRC工法資格認定講習会」を開催する。また、継承者・管理技術者育成を同事業から分離独立させる。「東構塾」は理事長の直轄事業となる。

また、他県組合との交流会の開催を検討。新潟、長野、茨城の3県を候補地として折衝を進めることを決め、継続審議とした。

◆ 11月理事会 ◆

□ 11月30日、於・組合会議室 □

耐震補強工事に携わる組合員に対して技術的アドバイスを含む支援を行う代わりに、技術指導料として受注額の1%を徴収しているが、昨秋以降の急激な経済情勢の悪化に伴い企業収益が落ち込むなか、「耐震補強に携わる会社だけが技術指導料を払うのは不公平感がある」との声が上がっている。この意見に基づき、徴収継続の是非をめ

ぐり協議した。組合の重要な収入源の一つで予算編成の見直しにも関わる問題だけに、指導料の減額か徴収そのものの廃止かで意見が二分して決着がつかず、結論は次回の理事会に持ち越すことになった。



◆ 12月理事会 ◆

□ 12月17日、於・組合会議室 □

耐震補強工事の技術指導料について協議。来年度から半額の0.5%とすることを決めた。各社の仕事量などの情報交換ではHグレードから「稼働率は60%ほどで、山積みは来年の3月まで。4～5月は仕事が増える見込み」とする一方、「引き合いはあるものの単価が安過ぎ、来期を通じて状況悪化の想定で事業計画を練っている」との見通しが示された。

池田理事長は一年を総括し、「激動の年だった。鉄骨業界は仕事の減少と単価下落などで混迷を極め、経営環境や経済構造が大きく変わろうとしている。時代の流れを先読みしてそうした変化に乗り遅れないようにしなければならない」と語った。

平成 21 年度通常総会開く

新副理事長に鈴木貴久氏

(那須ストラクチャー工業専務)

当組合は5月28日、東京都荒川区のホテルで平成21年度通常総会を開き、役員改選で新副理事長に鈴木貴久氏(那須ストラ

クチャー工業専務)を選出した。

総会では副理事長の1名増員を決め、新副理事長に鈴木氏のほか、新理事に佐藤憲夫氏(アイ・テック専務)、谷村忠行氏(谷村製作所社長)、坂爪幸男氏(坂爪建鉄工業社長)を選出。総会後には「今後の経済・金融市場見通し」をテー

マに第一生命経済研究所主席エコノミストの嶋峰義清氏が講演した。



活発な事業活動を展開

全国Mグレード部会

◆幹事会◆

□ 1月23日、於・組合会議室□

幹事会を開き、平成21年度総会は4月に埼玉県羽生市の羽生市民プラザでの開催を決定。提出する議案などを確認、次第に基づき、受付や司会など担当を決めた。

また、総会後に東構塾の古藤凱生塾長による「リベット」の座学、日東鉄工羽生工場でリベット打ちの実演を行うこととし、とくにリベット実演は昔ながらの本格的な道具を使用して、伝統技法を再現することになり、「匠の技を後世に残すために映像として保存したい」(池谷会長)の提案により、記録撮影することにした。

◆総会◆

□ 4月18日、於・羽生市民プラザ□

第4回通常総会を開催。総会には関東地区の1都5県(東京、神奈川、千葉、栃木、群馬、山梨)の各鉄構組合Mグレード部会会員など関係者約60名が出席、会員及び各県部会員相互の交流と情報交換の推進など重点目標に盛り込んだ21年度事業計画を満場の拍手で承認した。

総会後には「リベット」をテーマとした東構塾の古藤凱生塾長の講演、さらに場所を日東鉄工羽生工場に移して「鞆祭り・リベット打ち」の実演が行われた。



全国R・Jグレード部会

◆総会◆

□ 6月26日、於・長谷川ビル(名古屋市)□

第6回総会で①各県組合のR・J部会の設立および会員拡大の推進②各県部会の交流③耐震補強工事の技術指導④R・Jグレード指定のPR——などを新年度の重点事業として可決。安全対策や外国人雇用問題、需要や市況の動向、性能評価認定制度などについて活発なフリーディスカッションが行われた。

◆研修会◆

□ 11月27日、セイケイ佐野製造所(栃木県)

11月18日、同・堺製造所(大阪府)□

27日、関東地区の研修行事としてセイケイの佐野製造所を見学。8000トプレスを活用した製造ラインや切断開先加工の現場を見て回った。

担当者から概要、生産体制などの説明を受けた後、8000トプレスなどコラム製造ライン、生産工程のほか、精密切断開先の加工を見学した。なお、関西地区では18日にセイケイ堺製造所を見学。担当者の説明後、6000トプレス機による製造工程を学んだ。



関東支部耐震委員会

◆関東経近委員会◆

□ 7月8日、於・組合会議室□

耐震工事の増加で各都県が協調して対応する必要があるとして各都県が状況報告を行い、検討した結果、各都県に耐震に関する委員会(4都県はすでに設置)などの組織を設置するか、耐震の担当者を置くことを要請。また、全構協関東支部に「耐震委員会」(仮称)の設置を要望することにした。

◆関東支部耐震補強委員会◆

□ 10月6日、於・組合会議室□

1回会合を開催。委員長に飯田歳樹氏(飯田製作所社長=東京)を選出した。今後、2カ月に1度の頻度で委員会を開き、活動内容として「耐震補強工事の安定供給と製作技術の向上」を基本目的とし、情報交換や支部内組合員に対する技術・見積りの指導、さらに同工事に多く介在する商社や専門業者の対応についても協議していく。初会合には神奈川、新潟を除く1都7県組合の出向委員のほか、池田英敏支部長、経営近代化委員の冬木金雄委員長も同席した。



UT試験実技講習会を開催

試験体を使用し、模擬試験

当組合は6月15、16日の2日間、日本鉄構建設工業(東京都八王子市)の事務所で「JIS超音波探傷試験技術者実技講習会」を実施。講師は稲田稔氏(稲田非破壊検査事務所)が担当。垂直探傷試験、

斜角探傷試験、答案作成等についてポイントを解説した。参加者たちは、試験体を使ってデータ採取の訓練を兼ねた模擬試験に挑み、受験上の留意点を学んだ。



事務局長に就任

加藤 哲夫氏



昨年3月末に千代田区役所を退職、当組合新事務局長に就任。指導課職員らとともに実態調査し、結果をまとめた『千代田レポート』はあまりにも有名。その後の工場認定、検査制度など鉄骨業界の技術確立と向上に大きな位置付けを果たした。「事務局の機能と役割を発揮できるよう頑張っていきたい」と抱負と決意を述べる。

鉄骨管理技術者受験準備講習会

1級 180名、2級 150名が受講

当組合は9月12日、千代田区の総評会館で鉄骨製作管理技術者1級資格取得者を対象とした受験準備講習会を開催した。関東・甲信越地区の全構協ファブのほか、鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会等の管理技術担当から約180名が受講した。講師はさくら設計事務所の羽石良一所長が担当、OHPを使用しながらテキストを解説した。

また、鉄骨製作管理技術者2級を対象とした受験準備講習会は10月3日

に同所で開催され、約150名が受講。羽石所長がテキストを解説し、講義終了後、受講者たちは本番を想定した模擬試験に挑んだ。

同講習会は11月7日に全国6会場で実施される鉄骨製作管理技術者登録機構が実施する鉄骨製作管理技術者試験に対応したもの。



地区会員名簿

東地区 (26社) 地区長 富士工業(株) 柳本幸治

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	那須ストラクチャー株式会社	H	10	中央ビルト工業株式会社	R	19	三進建鉄有限会社	R
2	アイ・テック	H	11	株式会社佐久間鉄工	R	20	株式会社市川スチールエンジニアリング	R
3	株式会社飯田製作所	M	12	城北工業株式会社	R	21	株式会社コイワ	R
4	株式会社中込工業所	M	13	鈴木鉄工建設株式会社	R	22	株式会社長谷川工業	J
5	株式会社前田製作所	M	14	有限会社高市工業	R	23	ヤナセ工業	未
6	吉岡工業株式会社	M	15	株式会社角鹿鉄工	R	24	株式会社奥村鉄構	未
7	株式会社谷村製作所	M	16	株式会社東洋鉄骨	R	25	有限会社矢萩鉄工	未
8	富士工業株式会社	M	17	株式会社利根川鉄工所	R	26	中央鋼材株式会社	未
9	株式会社中川鐵工所	M	18	林鉄工株式会社	R			

中地区 (13社) 地区長 わくた工業(株) 涌田好司

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	池田鉄工所株式会社	M	6	株式会社鎌建工業	M	11	小久保鉄工株式会社	R
2	日東鉄工株式会社	M	7	有限会社修和鉄工	M	12	有限会社大橋鉄工所	未
3	松田鋼業株式会社	M	8	井上鉄工株式会社	M	13	株式会社帝都建工	未
4	わくた工業株式会社	M	9	有限会社金谷鉄工所	R			
5	東京建鉄株式会社	M	10	株式会社三侑鉄工	R			

西地区 (24社) 地区長 (株)一本木鉄工 杉本豊

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	叶産業株式会社	H	9	株式会社一本木鉄工	R	17	株式会社山上建設工業	R
2	川岸工業株式会社	H	10	株式会社酒多鉄工所	R	18	株式会社かしや建設	R
3	株式会社矢嶋	H	11	有限会社坂爪建鉄工業	R	19	近藤鉄工株式会社	未
4	株式会社石郷岡工業	M	12	島崎工業株式会社	R	20	株式会社佐々木鉄工所	未
5	小島工業株式会社	M	13	有限会社中央製作所	R	21	株式会社敏鉄工	未
6	日本鉄構建設工業株式会社	M	14	有限会社橋本鉄工	R	22	株式会社高水鐵工	未
7	有限会社天野鉄工所	R	15	株式会社河村鉄工所	R	23	有限会社藤本鉄工所	未
8	井戸建鉄株式会社	R	16	株式会社栗野鉄工所	R	24	株式会社小室鉄建	未

東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

役	会社名	〒	住所	TEL	FAX	代表者 担当者	役職	業種・取扱商品
				E-mail				
幹事	大日本塗料販売(株) 東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 TOKYU REIT蒲田ビル8F	03-5710-4501	03-5710-4520	宮本 和夫 岡本 裕介	課長	全構指定塗料 錆止め塗料
幹事	大同生命保険(株) 首都圏地区営業所	103-0027	東京都中央区日本橋 2-7-4	03-3241-4311	03-3278-9676	永田 紀 日詰 裕	営業本部長	生命保険 共済保険
監査	ダイニッカ(株) 東京支店	104-0032	東京都中央区八丁堀 1-9-5	03-3552-3163	03-3552-3162	高岡 鉄也 川路 幸祐		全構指定塗料 錆止め塗料
会長	富士見興業(株)	166-0003	東京都杉並区高円寺南 1-27-11	03-3314-1430	03-3314-5818	石塚 勲 蒲生 紘一郎	代表取締役 部長	高圧ガス、溶材 機械、工具
幹事	(株)アマダカッティング	224-0025	神奈川県横浜市都筑区 早瀬1-28-18	045-594-1923	045-591-9460	橋本 文夫	副本部長	パソソ用ブレード
会計	(株)ファーストクルー	111-0053	東京都台東区浅草橋 5-24-6NBK浅草橋ビル6F	03-5822-3544	03-5822-3554	鈴木 康 辻川 高士	代表取締役 課長代理	鉄骨専用 CAD/CAMシステム
	(有)秋山商会	192-0151	東京都八王子市上川町 1128	042-654-7530	042-654-0777	秋山 弘志		クレーンリース
	加研興業(株)	136-0071	東京都江東区亀戸 5-23-6	03-3684-8031	03-3684-8042	吉川 由巳 高橋 亨	代表取締役 取締役	研削砥石製造販売
	サンコーテクノ(株)	270-0107	千葉県流山市西深井 1296-16	04-7178-3500	04-7178-5100	小西 隆夫 中村		建築金物製造販売
	青林保険事務所	110-0015	東京都台東区東上野 3-12-5 高野ビル3F	03-3839-7216	03-3839-7548	金子 直行		生損保商品販売
	(株)星和	121-0052	東京都足立区六木 2-6-27	03-3605-0817	03-3605-3521	北嶋 重司 星野 傳弘	専務取締役 常務取締役	鋼材、建築資材 ボルト、ナット、仮設機材
	(株)東栄化学	192-0032	東京都八王子市石川町 2973-3	0426-31-3801	0426-31-3808	中村 正二 宮阪 直樹	代表取締役	高圧ガス
	所沢資材(株)	359-0032	埼玉県所沢市若松町 852	04-2992-0231	04-2998-0570	本橋 孝義 小高 進一	代表取締役	ベースバック ハイベース
	中村鉄興(株)	359-1164	埼玉県所沢市三ヶ島 1-478	04-2948-0610	04-2949-2209	中村 弘田郎	代表取締役	切り板 孔あけ
	野村産業(株)	206-0812	東京都稲城市矢野口 786-1	042-377-6352	042-378-0655	野村 俊明	代表取締役	高圧ガス、溶材機器 ハイテンションボルト
	フルサト工業(株)	362-0808	埼玉県北足立郡伊奈町 大字小針新宿中島1295	048-728-8861	048-728-8868	丹羽 新六	所長	鉄骨副資材 ボルト
	(株)丸和	279-0025	千葉県浦安市鉄鋼通り 2-6-8	047-304-0811	047-304-0819	中畑 守弘 阿部 孝典	代表取締役	鍍鋼板専門 鋼板加工
	美鈴印刷紙工(株)	135-0033	東京都江東区深川 2-24-11	03-3643-4485	03-3642-3265	飯島 隆典 佐藤 智輝	代表取締役 係長	印刷・原寸用フィルム 製造販売
	有修溶工(株)	136-0071	東京都江東区亀戸 9-35-16	03-3637-6251	03-3637-6253	前川 修一	代表取締役	スタッド溶接工事 材料販売

編集後記

ちょっとした油断や驕り、安全の軽視は企業にとって命取りになりかねない。トヨタ自動車は新型プリウスを含むハイブリッド車4車種についてブレーキの不具合を理由に約22万台のリコールを国土交通省に届け出た。米欧でも同時に届けを出し、リコール台数は全世界で計約

43万7000台に上る。

ブレーキが瞬間的に利かなくなるとの苦情が表面化した当初、トヨタは運転者の感覚的な問題とし、安全性に問題はないと説明していた。しかし、続々とユーザーから苦情が寄せられるなか、国交省が保安基準に適合しない恐れがあると判断したことで、ようやくリコールに踏み切った。ただ、トヨタの後手後手の対応に消費者の困惑は一気に広がり、某米国紙は「安全性への疑

念を一掃できなければ、長期的な収益低迷につながる可能性がある」と報じている。

大企業といえども消費者の安全を軽視すれば、手痛いしっぺ返しを食うことになりかねない。同じく製品品質の良し悪しが人命にかかわる建築鉄骨業界でも今回の件を他山の石としたいところ。経営的に厳しい情勢下だからこそ基本を疎かにせず、安全・安心な製品を提供しつづけることが企業存続の第一条件となるであろうから。